

# 支援教育部ニュース

## 偏食指導の原則について その1

おいしくてメニューが豊富で、栄養バランス抜群の、みんなが楽しみにしている学校給食。そんな給食を食べることを楽しみにしている児童生徒がたくさんいる中で、極端な偏食のある児童生徒もいます。

特に生活年齢（実年齢）が低い児童を受け持つ先生ほど、「今のうちに食べられる物を増やしてあげたい」という思いが強いのではないのでしょうか。



極端な偏食のある子どもたちへのアプローチの原則について、2号に渡りお伝えしたいと思います。

原則①：改善はスモールステップで行いましょう。

原則②：強化子※（好きなおかず、先生からのほめ言葉等）を用意しましょう。（※行動を増やす物、事）



原則③：保護者のコンセンサス※を得ておきましょう。（※合意）

原則④：原因は様々なので、その原因を推測して、正しく対応することが必要です。



原則⑤：極端な偏食のある児童生徒に対して、食べたくない拒む食べ物を強くすすめることは、食への恐怖心を持たせてしまったり、関心を失わせてしまったりというリスクがあります。その恐怖心や無関心は、食に対してだけに止まらない場合もあります。



次号は、このうちの④について、もう少し掘り下げていきます。